第十五回

東京大薪能

番組表

日本カンボジア友好六十周年記念
東京大薪能と薪カンボジア舞踊

第一夜

平成二十五年 五月十五日（水）
十六時半開場　十八時開演
会場／東京都庁舎・都民広場

十八時

入門能楽鑑賞講座

半田　晴久
（中国国立浙江工商大学日本文化研究所教授・東南アジアテレビ局解説委員長）

十九時頃

〈世阿弥生誕六百五十周年記念〉

紀有常之娘里女　金剛　永謹（金剛流二十六世宗家）

能

井筒

旅僧　工藤　和哉
大鼓　安福　光雄
小鼓　住駒　匡彦
笛　一噌　幸弘
後見　松野　恭憲
重本　昌也
地謡　田村　修　山田　純夫　遠藤　勝實　中嶋　謙昌　元吉　正巳　宇高　通成　見越　文夫　坂本立津朗

狂言

茶壺

すっぱ　三宅　右近
中国の者　三宅　右矩
目代　三宅　近成

〈金剛流創案の演出〉

頼光の従者　工藤　寛
胡蝶　豊嶋　晃嗣
源頼光　金剛　龍謹
土蜘蛛の精　豊嶋　幸洋
僧　豊嶋三千春

能

土蜘蛛

千筋之伝
独武者　森　常好
従者　森　常太郎
従者　則久　英志
独武者の下人　高澤　祐介
大鼓　原岡　一之
小鼓　森　貴史
太鼓　林　雄一郎
笛　栗林　祐輔
後見　宇高　竜成
宇高　通成
重本　昌也
地謡　田村　修　山田　純夫　見越　文夫　中嶋　謙昌　元吉　正巳　松野　恭憲　遠藤　勝實　坂本立津朗

二十一時頃終了

能「井筒」

秋の夕暮、諸国行脚の旅僧が在原寺の旧跡に立寄ると、一人の美しい女性が現われ井戸の水をすくって古塚に手向けている。不審に思った僧がそのわけを尋ねると、これは在原業平の墓だから弔うのだと答える。そして、問われるままに、昔この場所で業平と紀有常の娘が契りを結んで住んでいたことや、二人の幼な馴染みの頃からの恋物語などをのべた後、実は私が井筒の女とも呼ばれた、その有常の娘なのですと素姓をあかし、井筒のかげに消え失せていく。

その夜、月のもとで仮寝をしている僧の夢の中に、業平の形見の冠、直衣を身に付けた有常の娘が現われ、井戸の水に映した自分の姿に業平の面影を偲び、「懐かしや 昔男に移り舞」と静かに舞〈序の舞〉を舞う。やがて、明け方となり、井筒の女の姿は消え、僧の夢もさめるのであった。

「筒井筒 井筒にかけしまろがたけ、生いにけらしな 妹見ざる間に」「比べ来し 振分髪も肩すぎぬ、君ならずして 誰かあぐべき」。能「井筒」は、『伊勢物語』につづられた有名なこの二つの恋の歌に託した恋物語であり、世阿弥は恋に執着する女の情念を見事に描いて見せる。

狂言「茶壺」

主人の使いで、京の栂尾まで茶を求めに行った中国地方の者（以下、中国の者）が、帰途、知人のふるまい酒に酔って、茶壺を背負ったまま道端に寝てしまう。それを通りかかった都のすっぱが見て、茶壺を盗もうとするが、男が肩にしっかり掛けているので取れない。考えたすっぱは、はずしてある片方の荷ない紐に自分の腕を通し、中国の者の傍らに横になる。目を覚ました中国の者は、見知らぬ男が茶壺の紐に腕を通しているので腹を立て、二人の所有権争いとなる。そこへ所の目代（役人）が出て来て、それを裁くことになる。しかし、中国の者が言う通りのことをすっぱも盗み聞いては同じように答えるので、どちらの物とも決めかね、次にこの茶の「園所入日記」（産地と内容明細書）を言わせる。それを中国の者が拍子にかかって舞いながら言うと、次にすっぱもその通りにまねをする。そこで、今度は両人連舞に舞えと命ずると、すっぱはちらりちらりと中国の者の方を盗み見ながら、なんとか、ごま化して同じように舞う。ついに裁きかねた目代は「論ずるものは中から取れ」という諺があると言って、自分が茶壺を持って逃げ、それを両人があわてて追いかける。

能「土蜘蛛」〈千筋之伝〉

源頼光は、このところずっと健康がすぐれず病床にふせっている。そこへ典薬頭（医薬をつかさどる役所の長官）からの薬をもって、胡蝶という侍女が見舞いにやってくる。そして、すっかり気の弱くなっている頼光に、治療さえすれば治りますと、慰めの言葉を残して帰ってゆく。すると、いつの間にきたのか、病室の隅に二人の僧がたたずんでいて、頼光に病状を尋ねながら枕元に近づいてくる。頼光が怪しんでその名を尋ねると、「我が背子が来べき宵なりささがにの、蜘蛛のふるまいかねてしるしも」という古歌を詠じたかと思うと、たちまち蜘蛛の本性を現し、千筋の糸を投げ掛ける。頼光は枕元にあった刀で斬りつけると、確かな手ごたえを残しながら、その妖怪は消え失せる。

物音に驚いて駆けつけた警固の独武者は、頼光の話を聞いてあたりを調べると、おびただしく血が流れているので、その血の跡を辿って化生の者を退治に出掛けることにする。やがて、身ごしらえをした独武者は郎等を引き連れ出発し、古塚を見つける。そこで力を合わせてその塚を崩すと、中から土蜘蛛の精が姿を現し、千筋の糸を繰り出し独武者たちを悩ますが、ついにそれを退治して二行は都に帰って行く。

解説（堀上　謙／能楽評論家）

主催／お問い合わせ：NPO法人 **世界芸術文化振興協会** ☎03-5336-3507　東京都杉並区西荻南 2-18-9 2階

後援：外務省　文化庁　東京都　カンボジア王国政府　駐日カンボジア王国大使館
駐日エジプト・アラブ共和国大使館 文化・教育・科学局　産経新聞社

協力：JFN　TOKYO MX　東京リゾート島 AQUA CITY ODAIBA　ANA　HYATT REGENCY TOKYO　ホテル グランパシフィック LE DAIBA　hotel nikko tokyo　ゆりかもめ YURIKAMOME　たちばな出版

※若干の雨の場合は決行致しますので、雨具の準備をお願い致します。
※開場～開演までの間、エジプトコーナーやカンボジアコーナーで、文化、舞踊の紹介があります。
※一部を除き、全席自由席となっております。
※当日は、会場の広さに対してあまりにも多くの方がお越しになった場合に限り、お入り頂けないこともございます。予めご了承下さい。